

第 95 回 医療薬学公開シンポジウム 開催報告書

第 95 回 医療薬学公開シンポジウム

実行委員長 長谷川 豊

(市立貝塚病院 薬剤部長)

令和 6 年 10 月 26 日 (土) 貝塚市文化会館コスモシアターにて第 95 回医療薬学公開シンポジウム (催: 一般社団法人 日本医療薬学会、後援: 大阪府病院薬剤師会、大阪府薬剤師会、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会) を開催いたしました。本シンポジウムでは「アドバンスケアプランニング (ACP) を学び地域で展開しよう」をテーマに掲げ、37 名の大阪府内外から病院薬剤師・薬局薬剤師・看護師など多職種が一堂に会しました。

講演 1 では、公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院 緩和ケア科部長 梶山 徹先生から「臨床現場での ACP～Good Life から Good Death へ」をテーマにご講演を賜りました。Concordance 医療に医療の潮流が変わりつつある中、患者による意思決定ばかりが目されがちであるが、患者の希望を実現し QOL の向上を目的としていく必要性について症例を提示しご講演いただきました。

講演 2 では、公立大学法人敦賀市立看護大学 薬理学教授 岡本 禎晃先生から「薬剤師が関わる意思決定支援の実際」をテーマにご講演を賜りました。薬剤師が関わる意思決定の場面としては化学療法への導入や終了、医療用麻薬の導入があり、薬剤師の説明は副作用の羅列が中心となることが多い。しかし、患者が求めている情報はそれだけでなく容姿の変化や経済的負担、仕事、家族の関係性など多岐にわたることが多い。これらを理解するためには、チーム医療は不可欠であることを症例を提示し説明いただきました。

講演 3 では、神戸大学大学院医学研究科先端緩和医療学講座医学研究員／がん看護専門看護師 藤原 由佳先生から「在宅療養の場での ACP の支援 ～訪問看護師の立場から～」をテーマにご講演を賜りました。チーム医療の中で日本版アドバンスケアプランニングの解釈をお話いただき、在宅医療で利用者の価値観を大切にすることで、患者の QOL が向上する可能性について薬剤師にも共有していただきました。

講演 4 では、彦根市立病院緩和ケア科 非常勤医師 田村 祐樹先生からは「「ACP」への「ABC」～そのひとらしく、あなたらしく～」をテーマに参加者同士の会話を取り入れたワークショップを賜りました。患者さんと数多く関わる中で、患者、家族、医療従事者の立場や思いには多様性があることを、参加者同士で言葉のかけ方によって相手の受け止め方には予期せぬ思いを感じることを体験し、「三方よし」の考え方を理解することができました。多様化する価値観を受入れ患者の意思決定を支援するプロセスには、時には時間はかかるもののチーム医療を集結し患者の希望を実現していく、やりがいのあるものであることを確認する機会となりました。

最後に講演を引き受けてくださった先生方、大阪府病院薬剤師会、大阪府薬剤師会、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会の皆様、そして企画・運営に尽力いただいた日本医療薬学会事務局をはじめ、ご協力いただいた全ての方々に心より感謝申し上げます。